

2025年度日系社会研修（多文化共生推進／日系協力型） 日系サポーター コース概要

NO	4
所管センター	東京
分野	教育
研修コース名（日）	外国につながりをもつ子どもたちに対する学習支援と日本社会の多文化共生
受入人数	2
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2026年2月1日（日）
提案団体（日）	NPO法人多文化フリースクールちば
提案団体 ウェブサイトアドレス	<a href="https://www.tabunka-freeschool-chiba.org/">https://www.tabunka-freeschool-chiba.org/</a>
研修員必要資格	将来、研修の成果を日本語教師や多文化共生の分野で活かす予定があること
研修員に必要な実務経験年数	不問
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語、またはスペイン語が理解できる
研修目標	<p>①外国につながりをもつ子どもたちに対する日本語教育と学習支援の方法を習得する。特にフリースクールを中心とした学習支援のサポートを行うことで、子どもたちの成長に応じたかかわり方を学ぶ。</p> <p>②日本語教師養成講座を聴講することで、日本語教師に必要な理論面を学習する。</p> <p>③継承語支援やフィールドワークを通じて外国につながりをもつ子どもたちの視点で日本の多文化共生の現状と課題を明らかにする。</p> <p>④日本の大学生と交流し、調査やグループワークを通じて多文化共生についての政策提言を作成する。</p>
期待される成果 （習得する技術）	<p>①日本語教育の理論と実践を学ぶ</p> <p>②継承語教育に関する基礎知識と実践を学ぶ</p> <p>③日本の教育システムや多文化共生の現状について理解し、海外との比較が出来る視野を持つ</p> <p>④日本の学校関係者や行政（教育委員会や国際交流協会）、市民社会や大学とネットワークを築く</p> <p>⑤帰国後、母国における学習支援において研修成果を還元し、指導力の向上を目指す</p>

<p>研修計画（内容）</p>	<p>視察：千葉県内の国際交流協会や教育委員会、学校、外国人の集住地域（行徳、船橋、山武、成田）、地域の日本語教室  実習：多文化フリースクールちば及び県内公立小学校・中学校にて学習支援  授業：日本語教師養成講座聴講（適宜）、千葉大学小川玲子ゼミナール（社会学）（週に1コマ）  研究会参加：千葉大学移民難民スタディーズ研究会への参加（在日外国人や教育をテーマとした報告も多い）  フィールドワーク：日系人の集住地域である八千代市米本団地や村上団地など  報告会：千葉の多文化共生に対する提言（仮題）を行政や学校関係者や市民社会に対して行う</p>
<p>研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等</p>	<p>千葉県には7000名以上の中南米出身者が在住しているが、子どもたちの多くは日本語の習得や進学に課題を抱えている。県教育委員会は、日本語を母語としない児童生徒を対象に、日本語指導員による日本語教室の設置や、日本語教室の設置が困難な学校は母語話者や日本語指導員による訪問指導を行うなど指導体制を整えてきた。また、地域の日本語教室やフリースクール等においても日本語指導が行われてきた。しかし、日本語指導が必要な子どもたちへの支援体制はまだ十分とは言えず、支援にたどり着けない子どもたちが多数存在している。  そこで、中南米と日本をつなぎ、子どもたちや保護者と教員や日本語指導員と意思疎通ができる人材を受け入れることにより日本語を母語としない児童生徒の受入れ体制を強化し、千葉県における多文化共生の課題を明らかにすることが求められている。</p>
<p>本研修実施の意義  応募者への裨益効果</p>	<p>第1に、多文化フリースクールちばと県内公立高校において外国につながりをもつ子どもたちに学習指導のサポートを行うことで日本語教授法と日本の教育制度について学ぶことが出来る。日本語教師養成講座総合コース（420時間）を開講している日本東京国際学院の講座を一部聴講することで、日本語教師に必要な理論面についての専門的な知識を身に付けることが可能となる。  第2に、継承語支援を通じて子どもたちに対する心理的サポートを習得することができる。中南米出身者の多くは日本と母国を往還しており、その子どもたちは日本で継承語教育を十分に受けることができなかつたことにより、母国へ戻って教育を受ける際に母語が理解できずに困難に直面しているという現状がある。継承語支援は日本在住の南米出身の子どもたちにとっては、日本における継承語だけでなく母国へ戻った際の母語になる可能性があり、とても重要な支援である。  第3に、千葉大学の授業や日系人の集住地域におけるフィールドワークに参加し、定住日系人の課題について日本の大学生と議論し、グループワークを行い、多文化共生社会の実現に向けた政策提言を取りまとめ、公開セミナーにて報告を行うことで、将来のキャリアアップにつながる。</p>
<p>応募希望者への特記事項</p>	<p>本研修はNPO法人多文化フリースクールちば、千葉大学移民難民スタディーズ、日本東京国際学院の3者の連携により実施される。</p>